

自己の存在感を高める学級活動の指導の工夫

自己の役割と協力を視点をおいた、話し合い活動とがんばりカードでの相互評価を通して

特別活動班 木暮 文幸 (中学校教諭)

生徒の実態



- 自分のやるべき仕事には取り組む。
- ×自分に自信がもてない。 → 自己の存在感が低い。
- ×他者と積極的にかかわらない。 → 固定化された小グループ。

教師の思い



自己の役割と協力の二つに視点をおいた、集団生活向上を目指した話し合い活動とがんばりカードでの相互評価を行えるようにすることで、生徒の自己の存在感を高めたい！

学級活動：集団生活（清掃活動／係活動）向上を目指した取組

話し合い活動

自己の役割と協力を視点をおいたKJ法の活用

話し合いの手順

- ①事前のアンケートから、自分たちが抱える課題を把握する。
- ②自己の役割と協力の二つの視点から自分たちの取組を振り返り、課題解決策を個人で考える。
- ③KJ法を用いて課題解決策を班で話し合う。
- ④自己の役割と協力の視点から今後の活動目標を決定する。

<活動例：清掃活動を向上させよう>

手順①



<課題> 自己の役割の視点では、目立たないところは手を抜いてしまうこと、協力の視点では、清掃分担に楽なものや大変なものがあるから楽な方を選んでしまうことだね。

手順②



みんなが平等になるように二週間で役割交代する。
ジャンケンで役割分担を決める。

手順③



班での話し合い

手順④

自己の役割
・一人一人細かいところまで常に心掛ける。
・手を抜かずに目立たないところもちゃんとやる。
協力
・二週間ごとに分担をジャンケンで決める。
・お互いに注意しながら掃除する。

KJ法を用いたため、生徒は自分の考えをもって話し合いに参加することができ、他者と積極的にかかわれた。また、二つの視点を設定したことで集団の一員であることを意識しながらよりよい集団を目指すことができた。

相互評価

自己の役割と協力を視点をおいたがんばりカードの活用

がんばりカード

集団生活向上を目指そう！

がんばりカード

1. 自己評価

2. 他者評価

3. 感想

1. 自己評価
・話し合いに基づく自分の取組を、自己の役割と協力の視点から振り返る。

2. 他者評価
・話し合いに基づく班員の取組を、自己の役割と協力の視点から振り返る。
・メッセージカードに記入し、班員に渡す。
・班員から渡されたメッセージカードを、自分のがんばりカードに貼る。

3. 感想
・班員からのメッセージを読み、気付いたことなどを記入する。

1. 自己評価



自己の役割の視点では、自分の決められた清掃箇所はしっかりとできたし、協力の視点ではみんなと協力して早く掃除を終わらすことができたと思う。



2. 他者評価



自己の役割の視点では、掃除の準備が早いし、雑巾でちゃんとすみまで拭きとっていたよ。協力の視点では、他の人がやり忘れたところを見つけて掃除していたし、机運びを進んでやっていたよ。

3. 感想

雑巾がけで当たり前のようにやっていたことがよかったと言ってもらえた。頑張れば認められる。次からも頑張ろう！

相互評価の際に二つの視点を設定したため、集団の一員として自己の役割を果たすことと協力することの大切さを再認識できた。また、地道な活動にも自己の役割や責任を遂行することの大切さに気付けた。

成果

- 二つの視点で話し合い活動と相互評価を行ったことで、自分が集団の一員であること、そして、その中で自己の役割を果たすことや協力することが大切なことを再認識することができた。
- 生徒は、話し合いを通じてよりよい集団を目指すことができた。実際に話し合いに基づいて地道な活動にもしっかりと取り組み、相互評価では互いのよさを認め合い、自己の役割や責任を遂行することの大切さに気付くことができた。一連の活動を通じて自己の存在感を高めることができた。
- 認められる機会が増え、自分に自信がもてる生徒が増えてきた。人間関係が以前より良好になり、学級の雰囲気もよくなってきた。

自己の存在感の高まり

課題

- 話し合い活動について
- 自己の役割と協力の視点に基づいた話し合いが進むように、二つの視点をもっと強調する必要がある。
 - 話し合いをより活性化させるには、課題設定の場面で課題として取り上げられる原因まで把握しておく必要がある。